

2 乱用が大切な脳を傷つける!

薬物を乱用した脳

私たちの脳は、すごいスピードで情報を処理し、体の隅々にまで伝達する、すぐれた仕組みを持っています。脳の働きによって私たちの行動のほとんど全てがコントロールされています。薬物乱用をすると脳の仕組みが壊されて体に様々な問題が起こります。



脳の働きの例

運動

心臓や肺を動かしたり、手足を思い通りに動かしたりする。

記憶

過去に認識したことを整理して保管している。

性格

他者の気持ちを理解するなど、社会性やモラルを司っている。

脳に薬物が入ると…

呼吸困難やけいれんを起こしたり、ケガが増えたり、事故を起こしたりする。

現実と記憶の区別がつかなくなり(妄想幻覚)、物事を正しく認識することができなくなる。

感情のコントロールができず、薬物がないと不安になったり、家族や友達よりも薬物を優先するようになったりする。

効かなくなり、薬物の使用量が増える(耐性)

薬物をやめたくてもやめられない(依存)

頑張っても専門的な治療を受けたとしても…

「再乱用のリスク」

回復の道もありますが、依存症は一生涯合わなければいけない病気です。薬物を乱用し脳が変化してしまった人は、このリスクを抱えて生きていかなくてはなりません。

また、再乱用をしなくてもストレスなどが引き金になって、突然元の症状に戻ってしまうことがあります。(フラッシュバック)

※薬物を乱用した人の回復のためには、厳しい専門の治療が必要です。

5 悩んだ時は、まず相談!

「友達が使っているけどどうしよう?」

「薬物の誘いを断る自信がない。」

「薬物を使ってしまった。どうしよう。」

「子供から、薬物について相談された。」

困ったときは、一人で悩まず相談を! あなたはひとりではありません。相談窓口では相談に関する秘密は厳守します。安心して少しでも早く相談してください。

薬物についての相談窓口

薬物乱用に関する相談は、各都道府県に設置されている下のいずれかの窓口で受け付けています。

- 精神保健福祉センター
- こころの健康センター
- 都道府県の薬務課

各都道府県窓口の連絡先詳細は、下のURLにあります。

パソコン

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/yakubuturanyou/other/madoguchi.html>

モバイル

<http://mobile.mhlw.go.jp/yakubutu/tihoubetu.html>



薬物乱用に関する最新情報など、随時更新中!

f 公式 Facebook

STOP the 薬物! ~断る勇気が未来をつくる~

<https://www.facebook.com/stopthedrug>



t 公式 Twitter

STOP the 薬物! <https://twitter.com/StopTheDrug>



—平成27年度—

薬物乱用防止 リーフレット

厚生労働省

1 1回だけでも乱用!!

薬物乱用とは? なぜいけないの?

薬物の使用は、厳密なルールと法律によって規制されています。使い方を間違えると、脳や神経を壊し、死んでしまうこともあるからです。そんな危険性がある薬物を、ルールや法律から外れた目的や方法で使用することを「薬物乱用」といいます。

乱用される代表的な違法薬物

覚醒剤、有機溶剤（シンナーなど）、MDMA（エクスタシー）、マジックマッシュルーム、LSD、コカイン、ヘロイン、危険ドラッグなど。



覚醒剤



MDMA

問題になっている危険ドラッグ

最近、危険ドラッグの乱用による健康被害や事件・事故が全国各地で発生しています。「ハーブ」、「アロマオイル」、「バスソルト」などと偽って売られていますが、覚醒剤や麻薬に似た化学物質が含まれている可能性もあり、大変危険です。



危険ドラッグ (ハーブ系)



危険ドラッグ (アロマオイル系)

平成26年4月1日に「医薬品医療機器法」*が改正され、指定薬物*を含む危険ドラッグは持っているだけで犯罪です。

* 医薬品医療機器法…医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の略称。

* 指定薬物…幻覚、興奮をもたらすおそれがある物質を、医薬品医療機器法に基づき厚生労働大臣が「指定薬物」に指定しています。

3 あなただけの問題ではない!

薬物乱用の周りへの影響

薬物乱用は、本人だけの問題ではありません。乱用により性格、生活が変わると社会や周りの人々に重大な影響を与えます。

乱用者の変化

乱用者自身への影響

薬物が欲しい気持ちを抑えられなくなる。
感情のコントロールが難しくなる。
生活習慣が変わる。

家族に犯罪者がいることを知られたくなくて、家族全員、社会とのかかわりを避けていた。

家族間での言い争いや、家庭内暴力により、家庭が崩壊した。

金銭トラブルが増え、信頼もできなくなり、友達が離れていった。

覚醒剤を買うために、スーパーで高級酒を万引きし、スナックに売った。
(平成12年3月 福岡県)

危険ドラッグを使ったあと運転し、次々と人をはねる事故を起こした。
(平成24年5月 京都府)

覚醒剤を使用しつづけて混乱し、妻に殺されると思い込み、包丁で妻を刺し殺した。
(昭和57年2月 大阪府)

4 大切な自分を守るために

誘いの言葉にだまされない!



断りにくいときはその場から逃げましょう。逃げることも勇気です。

友達から薬物の誘いを受けたら…

友達の誘いを断ると、「仲間はずれになるかも…」と不安になるかもしれません。しかし、ウソを言って体に悪いものをすすめる人は、本当の友達ではありません。きっぱりと断ることが大切です。

誘いをよせつけない自分をつくろう!

薬物乱用の誘いや薬物への好奇心に負けない自分をつくるため、下の①～⑤の項目をイメージしてみましょう。あなたが自分自身をかけがえない大切な存在だと気づけたら、きっと自分を大切にするための選択ができるはずですよ。

大切な自分を守るための5つのポイント

- ① 大切に思うもの []
- ② 大切に思う人 []
- ③ 好きなもの・こと []
- ④ 卒業したらやりたいこと []
- ⑤ 薬物についての正しい知識 []